

# プレゼンテーション技術を磨く Training the tutors day (TTD) の試み ～pES clubの軌跡:第5報～

南郷 栄秀

The SPELL: <http://spell.umin.jp>

東京北社会保険病院 総合診療科, 東京医科歯科大学大学院 総合診療医学分野

## 今回明らかになったこと

- ◆ 医療系学部の卒前教育では、プレゼンテーション技術のトレーニングが不十分である
- ◆ 多学部学生が合同で行うTTDは、プレゼンテーション技術の向上に有用である

## 緒言

- ◆ 学生のうちにEBMの基本的な概念を取得し、卒後の業務に役立てることを目指して、2002年6月より、学生を対象とした1年間のEBM勉強会 (post EBM Seminar club; pES club) を計画・実施している
- ◆ 医師、歯科医師、薬剤師、看護師などは患者教育や後進の指導を行う必要があるが、これらを苦手とする者も多い
- ◆ 学生のうちに専門的知識の説明やプレゼンテーションの技術を磨いておくことは、卒後に業務を遂行する上で有用と考えられるが、学部ではそれらの教育は不十分である



第2～5期で試みた Training the tutors day (TTD) について報告する

## pES club概要

- ◆ 対象:
  - ◆ 医学部・歯学部学部生
  - ◆ 4年制大学学部生、修士課程(博士前期課程)大学院生
- ◆ 募集方法:
  - ◆ 毎年12月に、3時間の準単方向講義形式のEBMセミナーを開催
  - ◆ そこでEBM学習を深めたいと希望した学生の中から、1年間継続して学習する学生を選抜
- ◆ カリキュラムと年間スケジュール:
  - ◆ 月1回の例会と年1回の合宿
  - ◆ 例会を補完するメーリングリスト
  - ◆ 前期は、様々な研究デザインの論文を取り上げ、step3を中心に、一通りEBMの手順を学ぶ
  - ◆ 中期は応用編として、4つのstepそれぞれに特化した演習を行う
  - ◆ 後期の3回は、次期の前期を兼ね、後輩を指導しながら復習する

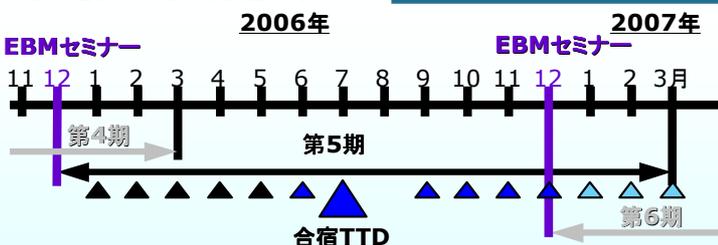


図1. 第5期 pES club 年間スケジュール

## 方法

- ◆ 中期に1泊2日(2～4期)、2泊3日(5期)の合宿を行った
- ◆ 参加者は、学生、社会人を問わず、合宿中に1人1回、何かしらのプレゼンテーションを行い、相互評価することが求められた
- ◆ 各自の持ち時間はフィードバックの時間も含めて10～30分
- ◆ プレゼンテーションの内容はEBMやスモールグループ学習の方法に関するものを原則とするが、他のテーマでも構わない
- ◆ 各学生は、事前にプレゼンテーションの内容について、講師とディスカッションを行った
- ◆ 評価:
  - ◆ 各プレゼンテーション毎に、難易度、説得性、簡潔性、時間配分、満足度の5項目を10点満点で採点し、計50点満点で評価した
  - ◆ さらに、プレゼンテーションの内容が聴衆に正しく伝わっているかどうかを確認し、プレゼンテーションの優れた点、改善点について、自由記述で評価した

## 学生が行ったプレゼンテーションのテーマ

- ◆ EBMの5つのstep
- ◆ PECOを用いた問題の定式化
- ◆ 臨床研究のデザイン
- ◆ システマティックレビューの結果の評価
- ◆ 治療効果の指標
- ◆ 感度、特異度、尤度比
- ◆ PubMedの使い方
- ◆ EBMはいつから学ぶ?
- ◆ PK de EBM (EBMクイズ)
- ◆ 効果的プレゼンテーションの方法
- ◆ アイスブレイキング
- ◆ 歯の磨き方
- ◆ 人の心をつかむ話し方

## 結論

従来の学部教育では、プレゼンテーション技術のトレーニングには十分な時間が割かれてこなかった。しかし、自分の考えを適切に伝えることは、卒後に日常業務を行う上で、すぐに必要とされる技術と考えられ、学生もその技術の習得を特に強く望んでいることが明らかとなった。多学部学生が合同で行うTTDは、プレゼンテーション技術の向上に有用であった

## 結果および考察

表1. 第2～5期のTTDの参加者数

	第2期 2003年	第3期 2004年	第4期 2005年	第5期 2006年	合計
医学生	0	2	3	4	9
歯学生	2	3	2	4	11
薬学生	-	3	-	3	6
看護学生	-	-	2	3	5
OB/OG	1	1	3	3	8
社会人	4	4	5	4	17
合計	7	13	15	21	56

表2. 第2～5期TTDの相互評価での平均得点

	難易度	説得性	簡潔性	時間配分	満足度	合計
医学生	8.2	8.3	8.1	8.5	8.5	41.7
歯学生	8.2	7.8	7.8	7.9	8.1	39.8
薬学生	8.2	8.0	7.9	8.1	8.4	40.5
看護学生	8.5	8.0	8.2	7.3	8.2	40.2
学生合計	8.3	8.0	8.0	8.1	8.3	40.6
OB/OG	8.5	8.0	8.3	8.3	8.4	41.5
社会人	8.7	8.7	8.5	8.5	8.8	43.0
社会人合計	8.6	8.5	8.4	8.4	8.7	42.6

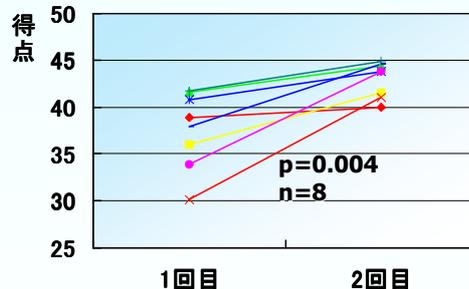


図2. 複数回のTTDを経験した者の得点の変化

### プレゼンテーションの優れた点

- ◆ 具体的な例を挙げて説明した
- ◆ 参加者に作業を促した
- ◆ 図を多用した視覚効果により、分かりやすかった
- ◆ テンポよく、和やかな雰囲気を作っていた
- ◆ 自分が学びながら疑問に思ったことをまとめていた

### プレゼンテーションの改善すべき点

- ◆ 参加者に作業を促す際にその内容を明確に伝える
- ◆ グループワークでは、消極的な人にも参加するよう配慮をすべき
- ◆ 説明の速さのペース配分を適切にする
- ◆ 時間内に話すためには、論点を絞って話をすべき

### TTDの感想

- ◆ 他人のプレゼンテーションを集中的にたくさん見ることができ、互いにテクニックを共有できた
- ◆ よいプレゼンテーションを行うためには、入念な準備が必要だと分かった
- ◆ 時間配分を決めるには、本番前に1度実際のプレゼンテーションの予行演習をするといふと分かった
- ◆ このようなトレーニングは初めて体験した
- ◆ 合宿係になることで、社会勉強にもなった
- ◆ 人前に出て話すことに慣れた
- ◆ 社会人のうまいプレゼンテーションに感動した